

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称  
第3回上浦地域審議会

2 開催日時  
平成28年3月9日（水） 18時30分から20時00分

3 開催場所  
佐伯市上浦大字津井浦1400番地3  
上浦振興局 2階 小会議室  
（地域審議会委員）  
会長 山矢 隆彦 副会長 鱈石 朝子  
委員 池田 敬、岩崎 由紀子、河野 亜紀、野田 郁子、森崎 秀信、山本 忠道  
（委員10名中8名出席）

（副市長） 白川 逸喜

（上浦振興局）

振興局長兼地域振興課長 亀山 伸太

課長補佐兼係長 西海 正実 副主幹 管 正晴 （3名）

5 公開、非公開の別  
公開

6 傍聴人数  
0人

7 議題及び結果

1) 上浦の地域振興について

8 審議の内容

○上浦の地域振興について自由な意見交換を行った。なお、次回以降具体策について協議することを確認した。主な意見は以下のとおり。

・旧市内と旧郡部の格差が出てきたように感じる。高齢化率もしかりだが、地域の人に少し諦め感が出てきたように感じる。心の空洞化を感じる。反面、何かせねばという思いも伝わってくる。

・移住・定住を考える上で、組織を作ることも重要ではあるが、目標を設定することも大切。来た人が良かった、呼んだ方も良かったと思えるような策を講じたい。観光も悪くないが、住んでいる人が良かったと思えるものを考えたい。

- ・地域振興とは「地域を盛んにする」という意味。観光に目がいきがちで、来る人に喜んでもらっていたが、地域の人が暮らしやすい状況をつくるべきと考える。
- ・以前、旧上浦町時代の「ふるさと祭り」に出店した際、その小さなエリアでお金が回っていると感じたことがある。ということは、上浦の中でお金が回って、暮らしていったのではと思う。なのに、外に目が向いてしまう。地元の人が、外に目を向けた状況であれば、来た人も後悔するかも……。受け入れた感も得ないだろう。この地域に住んだとき、医療、学校、安全、生活など不安だと感じれば、人は残らないと思う。移住も考えにくい。
- ・旧佐伯市、旧郡部を見たときに、最低でも生活が営める拠点づくりが必要。最低限を守らないといけないところが欠けてきた。
- ・交通面にしても、大分バスの都合で、勝手に便数を減らされたり、行先を縮めたりする。自分たちの思いはあっても、周りが勝手に最低限を崩してくる。
- ・合併前の10年間平均の子どもの数は15.8人/年、合併後の10年間の平均は5.4人/年と1/3になっている。旧町村が行っていたそれぞれの特色ある定住策等を「佐伯市は一つ」ということで廃止したことが地域の人口減・少子化に拍車をかけたと思う。条件が同じなら便利の良い所に住むのはあたりまえのこと。上浦に住んで良かったと思える策がないと人口減にブレーキをかけることはできない。各地域に特色があるべき(だった)と思う。
- ・現在、東雲小・中学校の児童・生徒数は111人だが、5年後には51人となる。厳しい現実を目の前にして、何をすべきか考える必要がある。
- ・スポ少活動に来る子ども達に話を聞くと、「上浦に住みたい」という意見は多い。この子達が残ってくれる地域でありたい。スキーやプロスポーツ観戦等色々な体験をさせてあげたい。
- ・今の上浦の商工業等は、上浦に住んでいる人のニーズに合っていないような気がする。人口構成が昔のままの商業体系、やり方である。以前、佐賀県の商店街に行ったことがあるが、50mほどの商店街で生き残っていたのは4軒ほど。店側が変われば(ニーズに対応すれば)、生き残れると感じた。
- ・行政はまず、器を作るべき、住民はその器に水を入れるのが本来。ただ、住民が求める器と行政が作る器が合致しない。
- ・これから、上浦ならではのコンセプトで「上浦を元気にする会」を組織したい。

## 9 会議の資料名一覧

- ・「地域振興審議会意見一覧」
- ・上浦地域の年齢別人口
- ・地方創生に関する意見交換、聞き取り表

## 10 問い合わせ先

担当課 上浦振興局 地域振興課 地域振興係  
 電話番号 0972-32-3111